

牧之原市制施行 20 周年記念式典 市長式辞

本日、牧之原市制施行 20 周年記念式典の開催にあたり、このように多くの市民の皆様にご列席を賜り、皆様とともに祝うことができますことは、誠に喜ばしく、心より厚く御礼申し上げます。

また、ご多用中にもかかわらず、ご臨席を賜りました静岡県副知事 塚本秀綱様、衆議院議員 井林辰憲様、鈴木岳幸様、西園勝秀様、県議会議員 大石健司様をはじめ、県外の友好都市や県内の市や町の首長様、議長様など、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、重ねて感謝申し上げます。

なお、本日は、この記念式典におきまして、長きにわたり市政に多大な貢献をいただきました皆様の、ご功績を称え、市民を代表し、私から特別感謝状をお贈りすることとしております。

まず、昨年9月に発生した「令和7年牧之原市台風15号に伴う竜巻等災害」において被災された皆様、負傷された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災された方々が、一日でも早く安心して暮らせる日常が取り戻せるよう全力で取り組んでまいります。

加えて、この災害におきまして、県外の友好都市や県内の市や町をはじめ、県内外の企業や団体など多くの皆様から、早期の復旧・復興に向けた多大なるご支援を頂きましたことを、この場をお借りして、衷心よりお礼申し上げます。

さて、当市は、美しい自然と豊富な農水産物、富士山静岡空港や周辺地域の雇用を支える企業・研究所など、多くの地域資源と可能性を持ったまちとして、この20年間、多岐の分野で成長を遂げてきました。

そのようななか、令和という新しい時代を迎えた直後、新型コロナウイルス感染症という、未曾有の事態に直面し、日常生活や社会・経済が不安定な状況の中で、「住民の命と暮らしを守る」という行政の使命と役割を改めて認識し

たところです。

このような状況下において、市民の健康と生活を守ることを最優先に、感染症防止対策、ワクチン接種、地域の経済対策など、市民の皆様とともに、知恵と工夫によって打開策を考え、実行してまいりました。

対応にあたっては、2010年から医療法人徳洲会様が指定管理者となった榛原総合病院をはじめとした、地域の医療関係者の皆様に大いにご活躍いただきました。

こうした環境の変化に対応する柔軟性や決断力、さらに行動力など、その困難に立ち向かう市民力を肌で感じ、改めて、このまちの「底力」を確信したところであります。

人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢において、当市では、次世代に向けた高い持続性を確保することを目的に、「RIDE ON MAKINOHARA 夢に乗るまち牧之原」を理念とした、「まちづくり」に取り組んでおります。

このまちづくりの羅針盤となる総合計画では、市民生活における安心安全の確保や高台開発の推進を掲げた「富士山型ネットワークの充実」、出産から子育てに関する支援の充実や女性の活躍、新しい働き方の促進を目指す「日本一女性にやさしいまちの推進」、「次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり」など、5つの重点戦略・プロジェクトを掲げ、多岐に渡る事業を展開しております。

当市においては、2009年の富士山静岡空港開港により、東名高速道路相良牧之原IC、御前崎港を「陸・海・空」の結節点とした、交通インフラが整備され、交通アクセスは、飛躍的に向上し、新たな企業の進出や国内外の都市等との交流拡大など、大きな発展を遂げてきました。

その富士山型ネットワークの頂上部となる、相良牧之原IC北側地区における開発につきましては、造成工事が完了し、今後、賑わいと雇用の創出、移住

定住人口の拡大を目指し、新たな拠点づくりに取り組んでまいります。

その他、産業、観光等における施策において、スズキ株式会社様には、1992年の相良工場操業以来、2008年には、四輪車組立工場が稼働し、現在は次世代モビリティの研究・開発設備の増強を図るなど、地元雇用の創出や地域経済の活性化に、多大なる貢献を頂いています。

また、東日本大震災以降、海離れが急速に加速する中、沿岸部活性化の核として、2021年に日本初のサーフィン競技用人工造波施設「静波サーフスタジアム」が開業しました。

この開業と同時期に開催された東京五輪に出場するアメリカサーフィンチームが柿落しとして、事前合宿を行ったことで、知名度も高まり、沿岸部の賑わい創出の拠点として、現在多くの来訪者で賑わっています。

さらに、持続可能で、子ども達にとって、より良い教育環境を提供するため、市内小中学校を、9年間の連続した学びや育ちを行う義務教育学校2校に再編し、「子ども達が学びたい、保護者が学ばせたい」と思える学校づくりに取り組んでおります。

また、最近の話題では、郷土を代表する偉人「田沼意次侯」が登場する大河ドラマ「べらぼう～薦重栄華乃夢嘶～」が昨年1月5日の放送開始以来、1年間にわたり、お茶の間を賑わせ、意次侯の功績を、全国に発信することができました。

ここに至るまでには、「生誕300年大祭の開催」や「意次侯の銅像建立」など、市民の力が結集し、意次侯の顕彰に取り組んだ賜物だと考えております。

本日、大河ドラマ展のクロージングを迎えることになりますが、この式典の第2部では、田沼意次侯と歴史上、政敵であったとされる白河藩主 松平定信公を話題にして、大河ドラマファンで歴史通のタレントの松村邦洋さんと歴史タレントの堀口茉純さんによる記念トークショーを開催いたしますので、引き

続き、お楽しみいただければ幸いです。

大河ドラマ放映など、意次侯の顕彰に係るこれらの取組は、単なるシティプロモーションに留まらず、市民の一体感や郷土愛の醸成に、大きく寄与するものと捉えております。

この取組をレガシーとして、観光、文化、産業など多岐に渡る交流促進につなげてまいりますので、引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、私たちが愛するこのまちが、子や孫の世代になっても持続可能で、市民の皆様が希望を持って暮らせるよう、新しい課題や困難な課題に対しても知恵を絞り、工夫を凝らし、「輝く未来」の実現にむけて全力で取り組んでいくことをお誓い申し上げます。

結びにあたりまして、本日、ご多用のところご臨席賜りました皆様に改めて感謝を申し上げるとともに、皆様の益々のご活躍、ご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、牧之原市制施行 20 周年記念式典の式辞といたします。

令和 8 年 1 月 12 日

牧之原市長 杉本 基久雄